

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成27年度病虫害発生予報第2号(5月)について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

予報第2号

ナシの病害に注意しましょう。

4月5半旬の調査で、黒星病は例年に比べ発生が多く認められました。発病葉や果実は感染源になるので、見つけ次第取り除き園外に持ち出し処分しましょう。黒星病は降雨により伝染するため、梅雨明けまでは注意が必要です。発病が多いほ場では追加防除を行うなど薬剤散布を徹底しましょう。

また、ナシ赤星病の本年の飛散は終息に近づいていますが、去年は5月末まで感染による被害が発生する事例がみられましたので本年についても注意しましょう。



黒星病(葉柄に発病)



黒星病(花そうに発病)



赤星病

＜予想される向こう1か月の天候(平成27年5月2日～平成27年6月1日)＞

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並でしょう。週別の気温は、1週目～4週目まで平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

(福岡管区气象台 平成27年4月30日発表抜粋)

5月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	そうか病	少	少	並
ナシ	黒星病	多	多	やや多
カキ	フジコナカイガラムシ	多	多	多
果樹共通	チャバネアオカメムシ	少	—	少
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ	やや多 並	やや多 並	並 並

*果樹共通・チャバネアオカメムシの平年比について、現況は年次変動が大きいため前年比としている

作物別発生予報

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。それぞれの条件は、少発生（－）、やや少（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

【果樹：かんきつ】

1 そうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半月調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病葉率 0.0%（平年 0.2%、前年 0%）

発生ほ場率 9.1%（平年 15.3%、前年 0%）

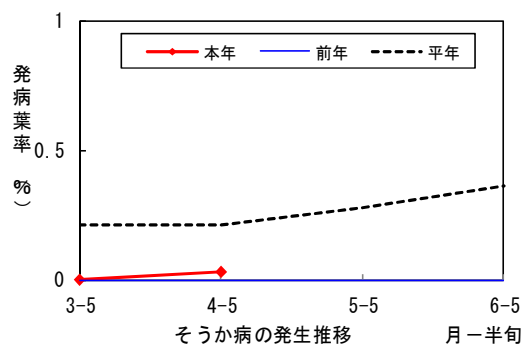
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は見つけ次第除去する。

ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 8の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



【果樹：なし】

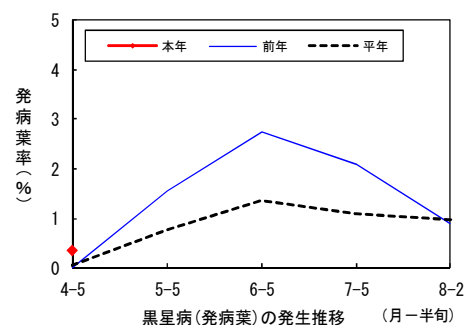
1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半月調査の結果、発生量は平年より多かった（＋）。



発病葉率 0.4% (平年0.1%、前年0%)

発生ほ場率 18.2% (平年8.9%、前年0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉や罹病果実は、見つけ次第除去する。

イ 薬剤感受の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。

ウ 薬剤防除にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤を混合する。ただし、有機銅剤は効果が低下するため混用しない。

【果樹：かき】

1 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半月調査の結果、発生量は平年より多かった(+)

寄生枝率 3.8% (平年 2.4%、前年 1.5%)

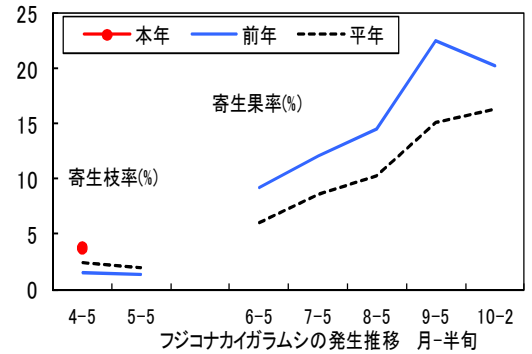
発生ほ場率 58.3% (平年 46.6%、前年 50.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 天敵への影響が比較的少ない薬剤で防除する。防除対策の詳細は、県ホームページに掲載している『病害虫・雑草防除の手引き』を参考にして下さい。

URL : http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/137505_50502708_misc.pdf



【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

(1) 予報の内容

発生量：前年より少、前々年並

(2) 予報の根拠

チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均0.9頭(前年4.8頭、前々年0.7頭)で、前年より少なかった(-)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認する。

イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め発生に応じて防除を行う。

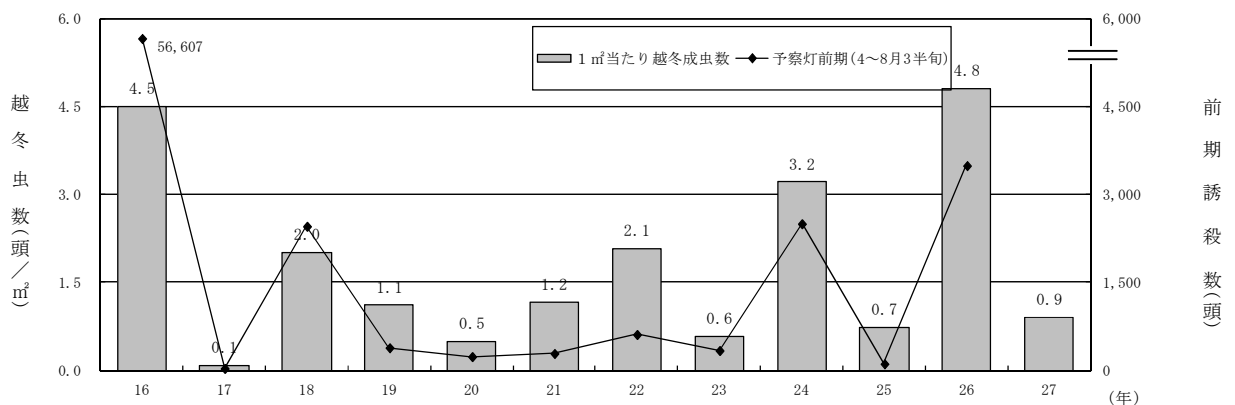


図1 チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬虫数と予察灯による前期(4~8月3半月)誘殺数の年次推移

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	少	少	少	・ミカンハモグリガやハマキムシ類との同時防除を行う。
ミカンハダニ	並	並	並	
なし 赤星病	多	多	多	・赤星病の小生子飛散は終息に近づいているが、周囲のビヤクシンの膨潤が遅れている場合は降雨後の注意が必要である。 (表1 ビヤクシン上のナシ赤星病菌冬孢子堆の成熟状況の推移を参照)
アブラムシ類	少	少	並	

<参考データ>

表1-①ビヤクシン上のナシ赤星病菌冬孢子堆の成熟状況の推移 (水浸法)

年次	平成27年			平成26年		
	調査日	膨潤率(%)	成熟度	調査日	膨潤率(%)	成熟度
朝倉	3/6	11.1	2.8			
	3/12	6.3	1.6			
	3/17	35.8	11.5			
	3/23	83.3	31.5	3/24	14.8	3.7
	3/30	95.2	48.4	3/31	98.3	53.3
	4/1	82.1	38.4	4/4	91.8	72.8
	4/8	100	90.5	4/10	98.3	79.2
	4/15	100	89.6	4/16	100	90.7
	4/20	100	82.8			
	4/24	100	83.3			
		4/28	100	81.0		
八女市	3/6	29.2	8.1			
	3/12	54.0	22.7			
	3/17	77.2	34.0	3/17	39.3	10.7
	3/23	85.0	38.1	3/24	49.6	14
	3/30	77.1	36.1	3/28	82.3	40
	4/1	99.3	66.8	4/4	99.2	87.7
	4/8	100	89.2	4/10	99.3	86.9
	4/15	100	98.4	4/16	100	86.6
	4/20	100	100			
	4/24	100	82.1			
		4/28	100	93.8		
広川町	3/6	9.4	2.4			
	3/12	40.7	17.8			
	3/17	68.1	26.9	3/17	36.1	10.1
	3/23	83.8	35.1	3/24	44.4	14.1
	3/30	97.2	42.6	3/28	73.8	31.6
	4/1	94.8	60.2	4/1	90.8	60
	4/8	100	90.0	4/10	91.4	67.9
	4/15	100	81.9	4/16	100	86.5
	4/20	100	81.1			
	4/24	100	79.7			
		4/28	100	82.9		
筑紫野市	3/6	33.7	10.4			
	3/12	58.1	23.0			
	3/17	81.3	30.4			
	3/23	92.8	42.3	3/24	51.3	14.6
	3/30	94.4	50.0	3/31	98.6	73.1
	4/1	96.5	61.5	4/1	99.4	76.3
	4/8	100	90.5	4/10	99.2	86.5
	4/15	100	94.7	4/16	100	94.4
	4/20	100	91.1			
	4/24	100	90.7			
		4/28	100	92.0		

注1) ビヤクシン上の冬孢子堆を水に30分浸漬し膨潤程度をA:冬孢子堆が外観的に完全に膨潤、B:一部が未膨潤、C:約50%未膨潤、D:一部膨潤、E:全く膨潤していない。の5段階で評価し膨潤率と成熟度を下記の式により算出。

膨潤率 = (A+B+C+D) / 孢子堆数 × 100

成熟度 = [(4A+3B+2C+D) / (4 × 孢子堆数)] × 100



ビヤクシン上の冬孢子堆膨潤程度

表1-②ビヤクシン上のナシ赤星病菌冬孢子堆の成熟状況の推移（樹上調査）

年次	平成27年									
	調査地点	調査日 日時	孢子堆数	膨潤程度別孢子堆数					膨潤率(%)	成熟度
				AA	A	B	C	D		
朝倉市	3/12	80	0	0	0	0	0	80	0.0	0.0
	3/17	165	0	0	0	11	39	115	30.3	7.4
	3/23	111	0	0	1	23	57	30	73.0	19.1
	3/30	37	0	0	0	10	18	9	75.7	20.5
	4/1	266	0	3	28	111	107	17	93.6	32.0
	4/8	165	70	35	26	24	10	0	100	75.9
	4/15	278	73	182	16	7	0	0	100	83.1
	4/20	231	145	69	4	5	8	0	100	89.3
	4/24	153	85	68	0	0	0	0	100	91.1
	4/28	91	45	42	1	2	1	0	100	88.1
八女市	3/12	151	0	0	2	6	31	112	25.8	6.5
	3/17	302	0	0	8	58	148	88	70.9	19.1
	3/23	100	0	0	0	47	39	14	86.0	26.6
	3/30	298	0	0	102	113	74	9	97.0	40.7
	4/1	450	0	78	28	232	88	24	94.7	42.1
	4/8	300	280	20	0	0	0	0	100	98.7
	4/15	225	202	20	0	3	0	0	100	97.4
	4/20	300	285	14	1	0	0	0	100	98.9
	4/24	320	308	12	0	0	0	0	100	99.3
	4/28	300	298	2	0	0	0	0	100	99.9
広川町	3/12	104	0	0	0	0	7	97	6.7	1.3
	3/17	304	0	0	4	34	128	138	54.6	13.7
	3/23	100	0	0	1	37	28	34	66.0	21.0
	3/30	300	0	0	14	153	106	27	91.0	30.3
	4/1	444	0	1	7	262	130	44	90.1	30.6
	4/8	298	155	88	15	35	5	0	100	83.7
	4/15	334	219	93	4	13	5	0	100	90.4
	4/20	300	204	83	5	7	1	0	100	92.1
	4/24	308	202	106	0	0	0	0	100	93.1
	4/28	300	209	88	1	0	2	0	100	93.5
筑紫野市	3/12	300	0	0	0	7	69	224	25.3	5.5
	3/17	320	0	0	0	61	162	97	69.7	17.8
	3/23	279	0	5	7	109	101	57	79.6	25.8
	3/30	300	0	4	166	82	38	10	96.7	47.7
	4/1	289	0	62	40	122	58	7	97.6	46.4
	4/8	311	262	30	14	2	3	0	100	95.1
	4/15	348	211	114	14	9	0	0	100	90.3
	4/20	296	252	37	3	4	0	0	100	96.3
	4/24	300	294	6	0	0	0	0	100	99.6
	4/28	300	300	0	0	0	0	0	100	100

注1) ビヤクシン上の冬孢子堆の膨潤程度を達観でAA:冬孢子堆が破裂、A:冬孢子堆が外観的に完全に膨潤、B:一部が未膨潤、C:約50%未膨潤、D:一部膨潤、E:全く膨潤していない。の6段階で評価し膨潤率と成熟度を下記の式により算出。

$$\text{膨潤率} = (\text{AA} + \text{A} + \text{B} + \text{C} + \text{D}) / \text{孢子堆数} \times 100$$

$$\text{成熟度} = \{ (5\text{AA} + 4\text{A} + 3\text{B} + 2\text{C} + \text{D}) / (5 \times \text{孢子堆数}) \}$$

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、平坦地では確認できなかったが、山間地では2地点の調査ではあったが寄生葉率29%と高く、発生量は平年よりやや多かった(+)。

寄生葉率9.7% (平年 3.3%)

50葉当たり虫数9.8頭 (平年 10.1頭)

発生ほ場率33.3% (平年 49.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

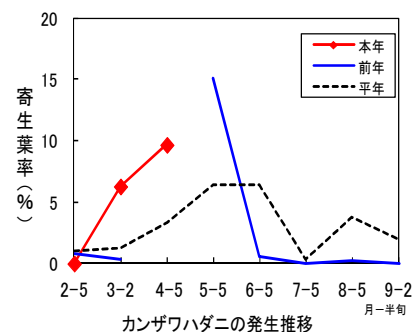
(3) 防除上の注意

ア 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、成虫の寄生葉率が2%以上である場合は、成虫、幼虫、卵に効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。

イ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p8の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



2 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

たたき落とし虫数1.3頭 (平年 1.7頭)

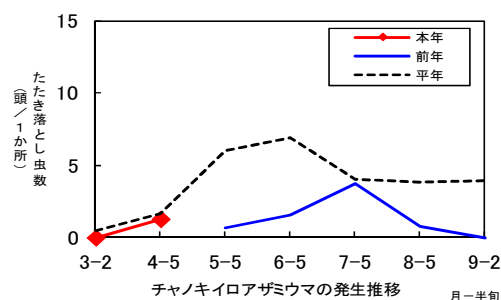
発生ほ場率50.0% (平年 61.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 一部では多発している茶園も見られることから、発生状況に注意し、たたき落とし(B5判上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【茶：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
チャノミドリヒメヨコバイ	並	並	並	発生状況に注意し、たたき落とし(B5判上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。 一番茶摘採後、又は二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャトゲコナジラミ	—	—	—	防除適期は若齢幼虫発生期で、親世代成虫の発生が収まった頃である。第一世代幼虫の防除適期は例年平坦地では5月中旬頃、山間地では5月下旬頃となっている。 茶園での成虫の発生状況に注意して防除に努める。幼虫は葉裏に寄生しているので、農薬の散布にあたっては、葉裏に十分にかかるように丁寧に散布する。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しました。
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所